

## 【様式1】

令和5年度 授業改善推進プラン

## 東久留米市立第五小学校 第5学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話の意図を考えながら聞いたり、相手に伝わりやすく順序立てて話したりすることに課題が見られる。</li> <li>・説明文での要旨の読み取り、物語文で主人公の心の変化の部分や主題の読みとりの際に、課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し手や聞き手に必要な技能や態度を日常生活や教科の学習での話し合いから考えさせ「話す・聞く」の活動に取り組ませる。(90%)</li> <li>・それぞれの立場や場面が視覚的にわかる板書を工夫したり、様々な見方を比較して検討できる授業展開を図る。</li> <li>・授業内で話し合い意見を交流させる場を設ける。また、話し合いの内容やノートの記述から理解度を検証する。(90%)</li> <li>・朝学習では漢字の書き取り練習を行い、確実に漢字を習得させる。(90%)</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考・判断・表現の力に二極化が見られる。自力解決をすることに課題が見られる。</li> <li>・計算(特に小数のかけ算・わり算の筆算)における技能及び図形に関する理解に課題が見られる。</li> <li>・文章から図や式にする発想や技能の定着に課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数直線の図を使った指導を通して、児童一人一人が解決の見通しをもてるようにするとともに、習熟度に応じた指導の工夫を行う。</li> <li>・計算技能の習熟の時間を十分に取るとともに、図形領域の学習においては個別指導を丁寧に行う。(90%)</li> <li>・授業内では、文・図・式のサイクルで、問題に取り組んでいく。(90%)</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を見付けたり作ったりしているものの、関心をもって学習問題を考えている児童は6割程度である。</li> <li>・予想や仮説から、解決方法を発想することに課題が見られる児童は2割以上である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事物や事象に関心をもてるように、これまでの経験を思い起こしたり、調べたいという疑問をもてたりするような導入の工夫を行う。</li> <li>・理科の考え方(条件制御)を働かせられるように、学習過程を工夫したり、既習の実験、観察方法を想起させたりする。(90%)</li> <li>・根拠のある予想や条件制御を自ら論述することができる。(90%)</li> </ul>
特別な 道徳 教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身についてより深く見つめたり、自己の生き方について考えたりすることに課題が見られる。</li> <li>・物事を多面的・多角的に考えることに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・価値項目を確認できるよう、児童自身の経験を振り返る導入を行う。そして、展開の前段で追求した価値に照らして、後段では今までとこれからの自分について考えさせる。(90%)</li> <li>・多様な感じ方や考え方に接することができるよう、他者と対話したり協働したりする場面を多く設定する。(90%)</li> </ul>

次年度に向けた  
自己評価  
(A・B・C)
